

に旧海山町（紀北町）が被災した際に現地災害ボランティアセンター（以後、災害V.C）の副センター長をやらせてもらっていて、災害の経験の有無よりキャンプとかアウトドアが平気な人が絶対いいだろうとわかっていたので、山登りとかサバイバルのできる人、日本中を旅して歩いている人20人くらいに声を掛けて、その中から第2、4次の先遣隊のメンバーを推薦しました。



端無徹也さん

ただ、行ってもらったメンバーと私は密に連絡を取り合いましたが、私と支援センター、支援センターと先遣隊メンバーとの連携が取れていなくて、行った人も何をしに行くのかわからないままで、とりあえずできることは何でもやってみてほしいと伝えたりしていました。支援センターから行く指示と私から行く指示と二系統になっていたのも問題だったと思うし、私もどうすれば良いか苦悩しました。

次の災害を考えた時、今回私が推薦した人で三重県民は実は8人中1人だけ。先遣隊を三重県民から派遣できなかったということも次の大きな課題と思います。

**亀山**…私は第1次先遣隊でした。市民会議の中で行く人を募集してリーダーを決め、4月初旬当時は燃料不足も懸念されていたので燃料を積んだ車を運転できる方なども手分けして探したり、車両を確保したりしました。早く現地の状況を掴み支援先を決めなければならぬ中、7名で行きました。かなり無理をして送り込んだ観がありました。その結果参加していただいた消防団の方々へのフィードバックやケアが何もできないままになったことが悔やまれます。早く入るといことが目的化していて、調査のための人材というところではあまり手当てできていなかったと思います。

**明石**…支援センターの電話回線を引いてから問合せの電話がたくさんかかってきました。夜はボランティアで対応したのですが、昼間はNPO室が対応してくれていました。幹事団

体から電話番号を出せないかとMLで流れていましたが、反応は十分ではありませんでした。

**亀山**…土日の対応については3月19日から仮設事務所を開設したのでボランティアが対応するようにしたのですが、4月半ば、そろそろスタッフを雇用しようとしていた頃、鳥井室長に「そろそろ加藤さんを通常業務に戻してほしい」と言われて本当に申し訳なく感じました。朝も昼も夜も加藤さんにかなり無理をしてもらっていたという気がします。

**山本**…幹事団体のメンバーも何人かは来て頂いていましたが少なかったですね。マニュアルでは支援センターが立ち上げれば幹事団体それぞれ人を出し合うと決めていましたが、事実上機能していませんでした。その辺り県社協はどんな状況だったのでしょうか。

**山口**…正直、あまり支援センターについて重きを置いていなかったと思います。県社協としては、全国社会福祉協議会からブロック派遣の話もあり、県社協として先遣隊も派遣して、結果、大槌町社協を支援する事に決まっています。その動きがメインになってしまいました。



山口訓広さん

支援センターにも担当の私としては関わらなければと思いますが、組織としては重きを置いていなかったのは反省点かなと思います。先遣隊人選の際にも県社協は独自に出していたので協力できませんでしたが、電話対応等についてMLで協力依頼についても、あまり対応できませんでした。

県社協で出した先遣隊や既に現地入りが始まっていたブロック派遣のメンバーとどう連携するかというところが見えないままに動いていて、うまくできなかった事も反省点だと思います。

**亀山**…先遣隊については、派遣するという合意形成をきちんとしてから出すべきだったと思います。今回はその辺が後付

けで、第1次、第2次派遣の頃は各幹事団体に、これでよろしいか？と何度も確認をとりながら進めました。先遣隊の位置づけが曖昧だったために、私たち先遣隊はどが出しているの？と所在なく感じた先遣隊員もおられると思います。行く人の後ろ盾となり、また現地の方としっかり関わり合いを作り出せる力のある人をつけた上での先遣隊派遣が望まれたと思います。



亀山裕美子さん

もう一点、これは事務局の人材のことですが、スタッフが雇用される5月初旬までの間、ボランティアコーディネーターがいなかったという問題がありました。何かしたいと支援センターに駆けつけたボランティアの方々も手持ち無沙汰にしている。誰も声を掛けずほったらかしにされている状況があるのには忍びない状況がありました。ボランティアセンターというものがどういうところか、幹事団体の共通認識になっていなかったことも一因としてあったかと思えます。

**山本**…進行役が発言してしまうことを赦してください。災害が起こってから立ち上げる組織の脆弱性が現れたと感じます。当時は事務局長が決まるまでが本当に大変でした。センター長としては活動や組織を創りあげるところに手一杯で、全体を見て仕切る番頭さんがいないとこのような事業ができなと感じました。

### どうやって組織を作ったか？

**山本**…さて、人についてはこのくらいにして、次に、どうやって支援センターの組織を作ったかというところでお話をお願いします。

**西川**…多分一番最初にビニールシートに組織図を私が書いたのが始まりだと思います。元々支援センターマニュアルに書かれている組織図で、県災害対策本部などの危機管理組織と

# 座談会 ① 立ち上げ支援センターはどのように立ち上がったのか

みえ災害ボランティア支援センター（以後、支援センター）はNPOや三重県社会福祉協議会（以後、県社協）、三重県などが協働で、災害が発生することに立ち上げることとなっていました。東日本大震災という未曾有の災害においては今までにない形でのセンター運営となりました。

この回では、東日本大震災を受けて支援センターがどのように立ち上がったのか、何ができて何ができなかったのか。また、今後に向けての課題について話し合っていました。



## 出席者

- 西川泰弘さん（NPO法人みえ防災市民会議 会員）
  - 明石須美子さん（NPO法人みえ防災市民会議 会員）
  - 亀山裕美子さん（NPO法人みえ防災市民会議 会員（当時））
  - 端無徹也さん（東紀州コミュニティデザイン 事務局長）
  - 山口訓広さん（社会福祉法人三重県社会福祉協議会 職員）
  - 加藤俊輔さん（三重県男女共同参画・NPO室 職員（当時））
  - 古川明郎さん（三重県男女共同参画・NPO室 副室長（当時））
  - 鳥井早葉子さん（三重県男女共同参画・NPO室 室長（当時））
- 聞き手  
山本康史（みえ災害ボランティア支援センター長）（以後 敬称略）

## 自己紹介と震災当時の状況について

山本…まずは自己紹介と、どういう状況で3月11日を迎え、支援センターに関わる様になったのかをお願いします。  
明石…震災があったのは、私がみえ防災市民会議（以後、市民会議）に入ってからちょうど1年経った頃でした。職場が県庁なので、仕事が終わってからアスト津に詰めて、できることはしなきゃいけないという気持ちで関わりました。震災の

当日は市民会議の親睦会の予定でしたが中止になり、仕事の後すぐアスト津に来たのを覚えています。

山口…当時はボランティアセンター担当でした。こんな大きな災害が発生して何からやったらいいのかという不安と、でも何かしなければとすごく気持ちが焦っていたという印象です。支援センターの動きと同時に社会福祉協議会の全国ブロックでの職員派遣などもあり、頭の中を整理するのが必死でした。そして4月1日に別の部署に異動になってしまい、バタバタしたまま関わりが薄くなってしまいました。

鳥井…私は震災当時、県の他部署におり4月から男女共同参画・NPO室（以後、NPO室）で関わることとなりました。赴任すると加藤さんは被災地に行っていて、古川さんはマスコミからの電話対応に追われていて話を聞く時間も無く、私は過去の議事録を読んで情報を把握しました。幹事会にも参加し、とりあえず継続的に活動するために予算がほしい、という認識ではじめました。

西川…発災当日は私も明石さんと同じく県庁にいて地震の揺れを感じ、揺れ方からプレート境界型地震だと感じてからは仕事そっちのけでした。テレビで仙台空港沿岸の津波が砕波しているのを見て、それが5m以上の津波で起こるという知識があったので大変なことになると思いました。幸い当時は残業のない職場だったので、仕事が終わったら支援センターに詰める、という動きをしました。

古川…NPO室で支援センターの担当をして3年目でした。当日は四日市に出張していて、帰ったらみんなテレビの前に集まっている。大変な事になってるなと思いました。災害が発生したとき、幹事団体は翌日夜に集合することになっていましたが、メーリングリスト（以後、ML）で今晩集まろうと決まりました。

普段から幹事会で話し合っていたので、支援センターを立ち上げることへの不安は少なく、県外の災害ではありますが、

対応することへの違和感もありませんでした。

端無…当時私は尾鷲市議会議員でした。ちょうど委員会中に地震があり、散会になってから地元北川の津波の動画を撮りに行きました。テレビを見て大変な事になるなと思い、情報をとろうとしたけど東北に知人がおらずなかなか取れなかったですね。翌日には友だちとか災害の仲間から、東北におまへは行かないのか？とかの話をやりとりしていました。

加藤…当時私は入庁1年目で支援センターの担当も古川副室長と共にさせて頂いていました。その当時は支援センターについて、なにか対応しなければと思いつつも、具体的にイメージできていない部分がありました。4月1日から塩竈市に行政職員として支援に行くことになり、それまでにお金と組織の作り方、情報共有をどうするかという課題を抱えましました。色々決まりは作っていたけど、いざ起こってみると先の見えない不安を抱えた一ヶ月だったように思います。

亀山…当時は市民会議の事務局をしていました。震災当日はアスト津の5階で開催されていた防災の講演会に業務で参加していました。地震が起きて中止となり、職場に戻りました。午後6時くらいに帰宅していいと言われたので、そのまま支援センターの臨時会に出席しました。県はもとより、前年に県社協ともいろいろな形で関わりを持っていたので、幹事団体の中でみなさんの意思疎通の要になればと思っていました。

## どのようにして立ち上げ人材を確保したか

山本…本題に入ります。まず、支援センターは災害ごとに立ち上げるという事で今回も震災後から人集めをはじめたわけですが、その時の苦労や課題などについてお願いします。  
端無…当時私も市民会議に参加していましたが、幹事会には出ていなかったのが非常にやきもきして山本さんや西川さんには怒りをぶつけた事が多々ありました。そんな中で先遣隊を派遣するという話が見えてきました。自分は平成16年